

教員名	浅田 徹 (ASADA Toru)
所 属	文教育学部言語文化学科日本語・日本文学講座
学 位	文学修士
職 名	助教授
URL/E-mail	asada.toru@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

日本文学 / 和歌 / 歌学 / 国語学史 / 連歌

◆主要業績

総数 (10) 件

- ・シリーズ「和歌をひらく」(全五巻のうち第一～第三巻が年度内に刊行。共編。うち第二巻『和歌が書かれるとき』2005・12 の責任編集者。同巻は岩波書店刊、245 ページ。そのうち「序論 声から紙へ—和歌の宿る場所」p1～p24、「書くことの呪術」p47～p76 を自分で執筆。)
- ・国立歴史民俗博物館『うたのちから 和歌の時代史』展 (2005・10～11 月開催) 図録 (展示プロジェクト委員の 1 人として共同編集・執筆。記名記事は「古今集の時代」p28～29)
- ・・ 堯恵古今伝授年譜稿 (お茶の水女子大学国語国文学会『国文』104 号、2005・12、p10～p21)

◆研究内容

2005 年は「古今和歌集」「新古今和歌集」の記念の年であったため、全国規模で行われた種々の記念企画に関わる仕事が多かった。美術館等における展示への企画協力、展示カタログへの寄稿、関連するテーマの論集への寄稿、雑誌の特集号の企画、座談などである。同時に、これまであまり踏み込んで研究していなかった室町時代の和歌史について、いくつかの論文を発表した。さらに、江戸時代後期の和歌について、自分なりの考察を得られるようにと考え、専門誌に論文を寄稿した。一方、時代を下っていくことで平安時代への目配りが失われるのを恐れ、非常勤講師で出講した大学院の学生たちと共同で、新出の小歌集の全注釈を刊行した。朝日新聞社から委嘱されている京都冷泉家所蔵の和歌関係典籍 (重要文化財) の調査と写真版監修・解題は継続して行っている作業で、この年も一冊を刊行し、また翌年以降のための調査を行った。

◆教育内容

【学部】 1 年生向けの「基礎ゼミ」では、隠れキリシタンの伝えた歪められたキリスト物語を取り上げ、異端思想に対する「寛容」について共に考えた。日本文学コースの専門科目では、中世の古典文学史を講義し、「特殊研究」では和歌・連歌を中心とした作品を取り上げて講義した。「基礎演習」において古典作品に対する文献学的取り扱いと専門レベルでのものの調べ方について指導した。「演習」では南北朝時代の歌人頼阿の自選歌集「頼阿法師詠」をテキストに選び、参加者が作品を適切に分析できるように指導した。【大学院】 全員で戦国時代頃成立の「名所句集」を読んだ。連歌の実際と、和歌の世界で育まれたそれぞれの名所のイメージについて学んでもらった。【その他】 高大連携教育プロジェクトのために、本学附属高校において 3 回の授業 (古文) を行った。

◆将来の研究計画・研究の展望

- ・平安～幕末期の和歌史的事象について、なるべく広汎に考えたい。
- ・国語学史と古典学史との間の壁を低くし、学的領域としての再構築を図りたい。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・『源氏作例秘訣』の頭注付き翻刻の刊行
- ・新しい国語学史の構築を目指すプロジェクト
- ・幕末・維新期の旧派和歌の動向についての資料研究

◆受験生等へのメッセージ

「研究」とは、この「アニュアル・レポート」のフォーマットが記入者に要求しているような「企業との共同研究による予算の獲得」を目指すものではない。それは理系分野のごく一部に限定されることである。大学院での文学系の研究を志してこの「レポート」を目にした学生の方々は、これでは学問など出来る状況ではないのではないかと不安に思われるに違いない。しかし文学系の研究室では、「実用的」研究のために教員のやりたい研究に動員されるようなことは決してないので、受験生諸君においては、安心して受験して頂きたい。